

科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）研究成果報告書

平成 25 年 6 月 22 日現在

機関番号：35501

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2011～2012

課題番号：23720154

研究課題名（和文）シェイクスピアの物語詩・ソネット集に内在するコード解読

研究課題名（英文）Decoding a message in Shakespeare's Narrative Poems and Sonnets

研究代表者

吉村 征洋（YOSHIMURA MASAHIRO）

梅光学院大学・国際言語文化学部・講師

研究者番号：90524471

研究成果の概要（和文）：シェイクスピアの 2 つの長編物語詩、『ヴィーナスとアドニス』と『ルクリースの凌辱』をエリザベス朝政治的コンテクストの視座から考察すると、「反エリザベス」というコードが内包されている可能性を検証した。本研究の成果としては、テキストの「ことば」を精査することによって、シェイクスピアが詩の中に内包したコードを読み解き、2 つの物語詩には、「反エリザベス」というイデオロギーが浮かび上がってくることを証左した。

研究成果の概要（英文）：In this research, I analyze the possibility that Shakespeare may have inserted a hidden code in his two narrative poems, *Venus and Adonis* and *The Rape of Lucrece*. These two poems have the common imageries such as the imageries of war and colors (red and white), and representations of king/queen. When we consider the similarities of the two narrative poems from the Elizabethan political context, I propose that Shakespeare's *Venus and Adonis* and *The Rape of Lucrece* embody a dangerous code, namely, an anti-Elizabethan ideology.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
交付決定額	1,000,000	300,000	1,300,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文学・英米・英語圏文学

キーワード：シェイクスピア、エリザベス朝政治、君主、republicanism、反エリザベス

1. 研究開始当初の背景

シェイクスピア作品とエリザベス朝政治との連関は、New Historicism が台頭し始めた 1980 年代ごろから盛んに指摘されるようになった。しかし、その大部分がシェイクスピアの劇作品とエリザベス朝政治との連関を研究したものであり、シェイクスピアの詩やソネットとエリザベス朝政治との連関に関しては、長らく等閑視されてきた。

21 世紀に入ってようやく、Richard Wilson の “A Bloody Question: The Politics of

Venus and Adonis” (*Religion & The Arts* 51, 2001)、Katherine Duncan-Johns の “Playing Fields or Killing Fields: Shakespeare's Poems and Sonnets” (*SQ* 54, 2003) や *Shakespeare's Poems* (2007)、さらには Andrew Hadfield の *Shakespeare and Republicanism* (2005) などの論文や書籍の中で、シェイクスピアの詩やソネット集とエリザベス朝政治との連関が指摘されるようになった。例えば、*Venus and Adonis* に関していえば、情欲に溺れる Venus が、若い男性に

執拗に求愛するプロットを、エリザベス女王が、周りの若い重臣たちに求愛する姿、つまり Venus がエリザベスのアレゴリーとして描写されていると考察した論文などがあげられる。

一方で、日本語で書かれた論文や書籍としては、国外研究に追随するように、シェイクスピア劇作品とエリザベス朝政治の連関を指摘するものがあるものの、詩やソネットに関しては、エリザベス朝政治との連関を考察した論文がほとんどないのが現状である。日本シェイクスピア学会や日本英文学会の研究発表やセミナー・シンポジウムの場においても、エリザベス朝演劇とエリザベス朝政治との連関を指摘する発表が多いにもかかわらず、エリザベス朝に書かれた詩と政治的連関を扱った研究はあまりないのが現状である。

2. 研究の目的

こうした国内外の研究動向や現状を踏まえて、研究代表者はシェイクスピアの詩・ソネットとエリザベス朝政治の連関を研究する必要があると考えた。シェイクスピアの詩に関しては、2008年度、2009年度に *The Rape of Lucrece*、2010年度に *Venus and Adonis* に実施した研究をベースにして、よりテキストの「ことば」を精査することによって、シェイクスピアが「ことば」に暗示したコードを解明し、テキストに内包されたイデオロギーとエリザベス朝政治の連関を探ることにした。ソネット集に関しても、2つの物語詩との連関を意識しながら、内在するイデオロギーを明示することを目標にした。

本研究の一番の特色・独創性は、国内ではあまり研究されていない、シェイクスピアの物語詩・ソネットとエリザベス朝政治の連関を探り、シェイクスピアが詩やソネット集の「ことば」に、「反エリザベス」イデオロギーをコード化した可能性を探ることにある。

2つの物語詩やソネット集の「ことば」を精査することによって、これまで注視されてこなかった、コード化された「ことば」をエリザベス朝政治的コンテキストの視座から考察することで、シェイクスピアが書いた詩やソネット集の「ことば」に暗示された、「反エリザベス」表象を明示できることが予想された。本研究成果によって、国内におけるシェイクスピア物語詩・ソネット集に関する研究に新たな視座を提供することができると考えた。

3. 研究の方法

本研究に必要な研究資料のほとんどは、インターネット上のデータベースや CD-ROM を利用することで、閲覧や参照することができ

た。本研究の先行研究資料などは、所属機関の図書館や国内の図書館から資料を取り寄せて、研究を遂行した。

(1) 平成 23 年度

平成 23 年度は、平成 20 年度から平成 22 年度にかけて研究した、*Venus and Adonis*、*The Rape of Lucrece* における研究を進展させ、2つの物語詩の類似性を探ったうえで、「反エリザベス」という共通したイデオロギーがコード化されて、詩のことばに埋め込まれていることを精査した。

この計画を実行するために、3段階(①調査段階、②研究段階、③報告段階)に分けて研究を進めた。

①調査段階：*Venus and Adonis*、*The Rape of Lucrece* に共通するテーマを探った。そこで二人の為政者に注目し、彼らを表象している「ことば」に注目しながら精読を行い、コード化されたことばが内包するイデオロギーを明示した。

②研究段階：*Venus and Adonis*、*The Rape of Lucrece* に関する先行研究の分析を行った。特に2つの詩とエリザベス朝政治との連関を研究している、Andrew Hadfield, Katherine Duncan Johns, Richard Wilson の著書や論文を中心に分析し、さらにはエリザベス朝政権を詳細に論じた John Guy, Paul Hammer の著書や論文を含めて、政治的・歴史的な文脈から2つの詩を包括的に研究した。そのうえで、調査段階で明示した持論の独自性と先行研究の比較考察を通じて、持論の補正を行った。

③報告段階：①②で得た研究成果を世間に報告するために、博士論文として報告を行った。

(2) 平成 24 年度

平成 24 年度の研究計画としては、平成 23 年度に実施したシェイクスピアの物語詩に関する研究をベースにして、2つの物語詩との共通点を探ったうえで、「反エリザベス」というイデオロギーがコード化されて、ソネット集の「ことば」に埋め込まれていることを精査した。

この計画を実行するために、4つの段階(①調査段階、②研究段階、③発表段階、④報告段階)に分けて研究を進めた。以下に、各段階における詳細を記す。

①調査段階：ソネット集のテキストを精読し、*Venus and Adonis*、*The Rape of Lucrece* における「ことば」との連関、もしくは差異を考察することを通して、ソネット集に書かれた「ことば」に内包され、コード化されたイデオロギーを分析した。

②研究段階：ソネット集に関する先行研究の分析を行う。特に、2つの物語詩とソネット集の連関を研究している著書や論文を中心に分析し、さらにはエリザベス朝政権を詳細に論じた John Guy, Paul Hammer の著書や論文を含めて、政治的・歴史的な脈からソネット集を包括的に研究した。そのうえで、調査段階で明示した持論の独自性と先行研究の比較考察を通じて、持論の補正を行った。

③発表段階と④報告段階に関しては、当該研究期間中に実行できなかった。

4. 研究成果

(1) 平成 23 年度

平成 23 年度には、シェイクスピアの 2 つの物語詩、*Venus and Adonis* と *The Rape of Lucrece* のことばを精査した。これをもとにして、*The Hidden Code in Venus and Adonis* という英語論文と、『シェイクスピアの 2 つの長編物語詩におけるコード解説』という博士論文を発表した。

① *The Hidden Code in Venus and Adonis*

本論文では、『ヴィーナスとアドニス』において、女神であるヴィーナスが意図的に「人間らしく」描写されていることを指摘し、ヴィーナスがエリザベスのアレゴリーとして解釈できる可能性を考察した。特に以下の 3 つの可能性—『ヴィーナスとアドニス』において、*goddess* であるはずのヴィーナスが、実は人間のように描かれているのではないかという可能性、ヴィーナスが人間らしく描かれていることから、ヴィーナスを実在の人物、すなわちエリザベスのアナロジーとして描いているのではないかという可能性、ヴィーナスが情欲に溺れ、アドニスがそれを明確に拒否するプロットは、エリザベス朝当時の政治的コンテキストから考慮すると、反エリザベスという姿勢と解釈できる可能性—を中心に考察した。最終的には、『ヴィーナスとアドニス』は、反エリザベスイデオロギーを内包する詩であると結論付けた。

② 『シェイクスピアの 2 つの長編物語詩におけるコード解説』

本論文では、ウィリアム・シェイクスピアの 2 つの長編物語詩 *Venus and Adonis* (以下、*VA*) と *The Rape of Lucrece* (以下、*RL*) のプロットや言葉の中に、共通して反エリザベスという政治的メッセージが、コード化されて包含されていることを提示した。

第 1 章から第 3 章が該当する第 1 部では、シェイクスピアが影響を受けたであろう政治理論と、その政治理論と文学の連関を考察した。まず、第 1 章、第 2 章において、古代

ギリシャ・ローマから、シェイクスピアが生きたルネサンス期までの政治理論の系譜を辿った。第 3 章では、第 1 章、第 2 章で検証した政治理論と文学作品の連関を探る妥当性を、マルクス主義批評家であるフレデリック・ジェームソンの理論を主に援用しながら考察した。

第 4 章から第 7 章が該当する第 2 部では、*VA* と *RL* にある「ことば」やプロットを精査しながら、2 つの長編物語詩には、共通したイデオロギーが内在していることを証左した。第 4 章では、特に *VA* におけるヴィーナスの描写に焦点を当てて、ヴィーナスとエリザベス 1 世の類似性を考察した。第 5 章では、*RL* におけるタークウインに注視して、この詩のプロットが、暴君タークウイン排除によって、ローマ共和制に変貌を遂げる場面に注目した。第 6 章では、*VA* と *RL* における為政者、つまりヴィーナスとタークウインに注目する。2 人の為政者は、王/女王にもかかわらず、情欲に溺れて、相手に自らの情欲をぶつける点で共通している。この共通性に、意図的な政治的メッセージが包含されていることを検証した。そして、本論文の最終章である第 7 章では、2 つの物語詩に登場する女性主人公に焦点を当てた。ヴィーナスとルクリースは、巧みなレトリックを有している一方で、身体的な「弱さ」に関する描写が多いことに注目し、シェイクスピアが意図的に 2 人の女性に「弱さ」を付与した可能性を指摘した。最終的には、多面的に 2 つの物語詩が内包する「反エリザベス」イデオロギーを明示した。

(2) 平成 24 年度

平成 24 年度には、『ソネット集』の中のことばを精査し、エリザベス朝の政治的コンテキストから、シェイクスピアが暗示したと考えられるメッセージを読み解いた。当該研究期間中には間に合わなかったが、平成 24 年度に実施した研究内容をベースにして、学会にて研究発表、およびその内容を論文にまとめて、学術雑誌に投稿予定にしている。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 2 件)

① Masahiro Yoshimura, *The Hidden Code in Venus and Adonis*, 『論集』第 45 号, pp. 23-34, 査読有、2012 年

② 吉村征洋, シェイクスピアの 2 つの長編物語詩におけるコード解説、『博士学位論文』, 全 131 頁, 査読無、2012 年

6. 研究組織

(1) 研究代表者

吉村 征洋 (YOSHIMURA MASAHIRO)
梅光学院大学・国際言語文化学部・講師
研究者番号：90524471